

平成 30 年 6 月 27 日現在

機関番号：34315

研究種目：基盤研究(B) (海外学術調査)

研究期間：2012～2017

課題番号：24401019

研究課題名(和文) 在欧洲絵入版本・浮世絵のカタログニング

研究課題名(英文) Cataloging for the pre-modern Japanese illustrated books and Ukiyo-e existing in Europe.

研究代表者

赤間 亮 (AKAMA, RYO)

立命館大学・文学部・教授

研究者番号：70212412

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 14,200,000円

研究成果の概要(和文)：欧州の5か所の所蔵機関が所蔵する浮世絵・絵入版本のカタログを目標に開始したが、最終的に欧州9か国30機関の作品デジタル化とカタログニングを実施し、大部分の作品は、「ARC浮世絵ポータルDB」「ARC古典籍ポータルDB」にそれぞれ搭載され、許諾を得られた組織については、一般公開を行っている。また、自前のコレクション・オンラインDBを運用している機関は、そこから本研究成果が発信されている。対象国は以下の通り。チェコ共和国(3機関)、ギリシャ(1機関)ドイツ(4機関)、イタリア(6機関)、英国(7機関)、ベルギー(1機関)、スイス(6機関)、オランダ(1機関)、アイルランド(1機関)。

研究成果の概要(英文)：At the beginning time, I planned to digital cataloging only for five institutions. However, I have finished for nine countries and thirty institutions. Most part of collections have been digitized completely, and been finished cataloging. These image data and catalogue data have been uploaded to "the ARC's Ukiyo-e Portal Database" and "the ARC's Rare Book Portal Database". The part of materials which have the permission of open to the public through the internet, have been opened to the public through the ARC's portal database. Additionally, the institutes which have an online database use the digital images for their own database. The countries are: Czech Republic, Greece, Germany, Italy, UK, Belgium, Switzerland, the Netherland, Ireland.

研究分野：日本文化・芸術

キーワード：イメージデータベース デジタルアーカイブ デジタルヒューマニティーズ 文化資源 浮世絵 錦絵
絵入本 絵本

1. 研究開始当初の背景

平成24年度から開始した本研究課題は、文化資源を高速かつ大量にデジタル・アーカイブし、デジタル・イメージデータをWEBデータベースで研究基盤として活用するというもので、平成30年となった現在、人文学では、この方向性が標準的に求められている。しかし、当初は、この研究手法は、すくなくとも日本文化研究分野では、存在していなかった。

本研究において調査の対象とするのは、江戸時代以降に大量に印刷された紙媒体の視覚的な研究資源であり、具体的に言えば、浮世絵や絵入版本などの版画による絵入資料である。

開始当初、研究代表者はすでに、国内では関西の自治体（舞鶴市糸井文庫・大阪城天守閣・都立中央図書館）、関東の大学図書館・博物館（日本大学、国立音楽大学、早稲田大学など）との共同デジタル・アーカイブにおいて成果を残していた。とりわけ浮世絵の分野では、ARC独自技術であるWeb上の研究者共有プラットフォーム「イメージ・データベース（以下、イメージDB）」によって、Web環境を利用した研究手法を積極的に推進してきた。

海外においては、平成16年以降、申請者が中心となり、浮世絵デジタルアーカイブプロジェクトを展開し、ヴィクトリア&アルバート博物館、スコットランド国立博物館の浮世絵45,000点のデジタル化と目録化に成功、イメージDB上で運用している。これを承け、平成20年からは、大英博物館のデジタル化と目録化を実施し、平成23年度に完成した。そして、既にこれらのデジタル画像は、目録化作業と併行して、オンデマンドで研究活動に供されたのである。

また、研究代表者は、関連する資料を持つ、米国のボストン美術館、アイルランド・チェスタービーティ図書館、ベルギー王立歴史美術博物館、イタリアのキョッソーネ東洋美術館、ヴェネチア東洋美術館、チェコの国立美術館など、各国で日本文化資源コレクションの予備調査を実施していた。

2. 研究の目的

過去2回に亙る英国の大規模な浮世絵コレクションの調査を発展させ、浮世絵・絵入版本を所蔵する欧州5機関を調査する。5機関は、予備調査を実施済みであり、国内に存在しない資料を多く所蔵しているか、特徴のある収集ポリシーを持つ機関を選定した。これらが過去2回の浮世絵調査と連動することで、在欧州日本版画作品の特徴を抽出できる。また、バラバラにされた絵入版本の作品特定が一気に進むことが期待できる。

そして、単なる書誌調査や目録作成ではなく、視覚型資料の特徴を踏まえた「イメージDB」として結実させる。これにより、研究協力者間でのイメージ共有を確保し、外形的書誌情報のみではなく、イメージの内容に踏み込

んだ在欧浮世絵・版本調査結果と、本研究完了後も継続して活用できるWeb型研究基盤を提供する。

3. 研究の方法

本課題の海外デジタル化プロジェクトは、従来型の海外調査とは大きく異なり、調査者自身がデジタル技術をもって高精細デジタル画像を記録し、対象となる分野の資料群を、全頁、全作品、網羅的にデジタル・アーカイブするもので、所蔵機関の未整理資料さえも、一気に整理が進む上に、短期間で研究資源として共有化状態にすることを可能とする。

従来、絵本や絵入版本の海外調査といえば、長い時間と費用をかけ、成果は冊子目録で刊行されるか、調査者グループのノートとして死蔵される事例が数多く見られた。ところが、本研究では、網羅的なデジタル・イメージデータが所蔵機関からWebその他のデジタルメディアで公開される。または、Web上の情報公開が許可されない所蔵機関であっても、セキュリティ付きではあるが、ARCのサーバーからネットワークによって高精細画像として閲覧できるため、世界規模の情報共有化、あるいは研究資源化（イメージはそのまま研究資源として活用できる）としては、圧倒的に優れた方法となっている。そのため、海外所蔵機関から、次々と共同研究・調査依頼のオファーを受けているのが現状である。

また、こうしたニーズに広く応じるため、ARCで蓄積されてきた研究方法（「ARCモデル」と呼ばれている）を海外の若手研究者にも伝達するため、技術伝授型ワークショップの試みを2011年以降頻繁に実施しており、教育プログラムも実用段階に達した。

調査データは、ジャンルや国境の壁を越えて、ARCが用意する「イメージDB」に登載され、横断的に活用される。DBは利用されながら、書誌情報が利用者自身の手で修正・追加され、研究活動と同時にインタラクティブに成長している。この段階では、日本と海外の若手研究者が、研究資源の資料としての本質を見抜く力をカタログリングと研究が同時に行われるWeb空間において身につけられるが、本研究の副次的な意義となろう。

このような作品分析や関連づけ、考察が深化されることで、研究発表・論文化され、また、展覧会の上で成果を示すことになる。

4. 研究成果

初年度段階から対象が大幅に拡大し、かつそれらのコレクションのほとんどでカタログリングも完了することができた。以下、対象となったコレクションを国ごとにまとめて状況を報告する。

また、浮世絵は、「ARC浮世絵ポータルDB」、絵入版本等は、「ARC古典籍ポータルDB」に登録されており、所蔵機関別DBを運用している事例もある。各項で触れる。

(1) チェコ共和国

・ナープルステク博物館 (Naprstek)

【総点数 (タイトルの件数)】 浮世絵 7751 件 古典籍 125 件

2012 年からデジタル化を開始。浮世絵は全部、版本は明治期の書籍の一部をこのして、本研究の対象となる資料はすべてデジタル化を終えた。現在、すべての資料がデータベースに登録されており、詳細なメタデータが付与された。

・プラハ国立美術館アジア館 (PragueNG)

【総点数】 浮世絵 3740 件 古典籍 698 件

2012 年からデジタル化を実施した。すべての浮世絵を完了。版本等は数冊を残すのみである。また、デジタル化した全ての資料がデータベースに登録されている。

・西ボヘミア博物館 (Pilsen)

【総点数】 浮世絵 312 件

2012 年 デジタル化を実施。所蔵する浮世絵全てをデジタル化し、データベースに搭載している。

チェコでは、現地カレル大学院生 3 名の協力を得てデジタル化を実施した。プラハ国立美術館の紹介により、当初全く情報を得ていなかった、ピルゼン西ボヘミア博物館の収蔵浮世絵 312 枚が、博物館の好意により、プラハ国立美術館に運ばれ、全作品のデジタル化が 1 日で完了できた。

チェコの 3 所蔵機関の資料を統合した、チェコ共和国浮世絵 DB (11803 件)、チェコ共和国古典籍 DB (823 件) を稼働させ、担当学芸員らの便宜を図っている。

(2) ギリシャ

・コルフ東洋博物館 (Corfu)

【総点数】 絵画 3253 件 古典籍 38 件

2012 年デジタル化を実施。セインズベリー日本文化芸術研究所研究員 2 名、東洋博物館 1 名の協力を得、調査・デジタル撮影を実施し、浮世絵、肉筆画、版本についてデジタル化が完了し、データベースへの搭載も済んでいる。日本絵画として分類されている資料群の中に浮世絵が含まれており、屏風や巻軸を除き、扇面などを含む肉筆絵画も撮影できた。この中には、写楽の新出作品として話題を集めた忠臣蔵二段目の扇面も含む。

(3) ドイツ

・ハンブルグ工芸博物館 (MKG)

【総点数】 2791 件

2012 年に浮世絵のデジタル化を 90% 実施した。残りは、四条派摺物など、サイズの大きなもののみである。本コレクションは摺物が圧倒的に多く、カタログリングは完了していない。画像は、浮世絵 DB には搭載済みである。

なお、ここには版本も 200 点、板木も数点所蔵されているため、次期プロジェクトで完了させたい。

・ベルリン東洋美術館 (BAM)

【総点数】 7828 件

2013 年に収蔵するすべての浮世絵についてデジタル化を完了した。また、カタログリングも完了している。なお、当該美術館には、約 200 点の古典籍を所蔵しているが、美術館の移転以降に実施することで確約がとれている。

・ドレスデン州立美術館 (SK Dresden)

【総点数】 浮世絵・摺物 9357 件 (但し、現代版画も含む) 古典籍 39 件

2013 年に収蔵するすべての浮世絵についてデジタル化を完了した。また、カタログリングも完了し、DB に搭載した。2017 年度には、古典籍のデジタル化・カタログリングも完了している。

この 2 所蔵機関のデジタル化にあたっては、ベルリン自由大学美術史研究科の学生 3 名に参加してもらい、デジタル化を進めた。以降、研究者・院生の学術的な交流を積極的に進めるため、当該学科と立命館大学 ARC は学術協定を締結した。

・H・リュール・コレクション (H. Luel)

【総点数】 浮世絵 7907 件 本コレクションは、2003 年度以降、断続的にデジタル化を継続しており、本研究課題においては、2017 年にデジタル化を実施し、以前のデジタル画像の修正を含み、約 1500 件の浮世絵を追加し、カタログリングも行った。当該コレクションは大阪版画の世界最大個人コレクションである。このコレクションと、アメリカ在住の個人コレクター 2 名、ならびに日本の大阪版画を専門とする浮世絵商 1 名のコレクションを統合した、大阪版画 DB コンソーシアムを結成してもらい、他の一般公開分も含めた大阪版画 DB を開始している。

(4) イタリア

・ヴェネチア東洋美術館 (MAOV)

【総点数】 絵画 3371 (内、浮世絵 3241 肉筆 80 書籍零葉 50 件)、古典籍 211 件

本コレクションのデジタル化は、別プロジェクトとして 2009 年からスタートしており、本課題により、2012 年中に書籍、浮世絵両方のデジタル化と目録化を完了した。なお、論文④を発表した時点では、書籍中に含まれてリストアップされていなかった浮世絵画帖の一部について、その後浮世絵 DB に登録することができたため、最終的には、約 500 件増加し、上記の件数となった。

本コレクションの調査は、ヴェネチア大学研究員 1 名、院生 2 名、日本からの補助者 1 名により実施した。

デジタル化したデータを使って、2013 年にはヴェネチア東洋美術館で「北斎」展を開催し、論文集+北斎書籍のすべての頁が入る DVD を出した。翌年にはやはり、ヴェネチア島の別会場を借りて「広重展」を開催した。これらの展覧会は、まさに本課題が生んだ成果と言える。

本美術館とは、ARC のイメージ DB を使った日本語・英語での WEB 公開の方向性で合意しており、2018 年度中の契約締結を目指している。

る。

・サレジオ大学図書館 マレガ文庫 (UPS Marega)

【総点数】浮世絵 2081 件 古典籍 842 件

2013 年からデジタル化を開始し、2014 年までにすべてデジタル化を終えた。なお、追加して運ばれた古典籍、地図などは、一部調査ができていない。古典籍は、国文学研究資料館により、目録作成がされているコレクションであるが、今回、2000 枚を越える浮世絵が初めて目録化されたこと、イメージ DB として、マレガ文庫が WEB 上で、一般公開されたことは、大きな進歩である。

ヴェネチア大学研究員 1 名、院生 5 名、日本からの補助者 2 名により実施し、技術移転の上、現地メンバーのみでのデジタル化作業も継続的に実施することで、短期間での完成を実現した。

・キオッソーネ東洋美術館 (Chios)

【総点数】浮世絵 7564 件 古典籍 293 件

当該美術館は、2010 年に一度、予備調査として、浮世絵一枚モノのデジタル化を実施していたが、2014 年から 2015 年までに、書籍形態を中心とする主要な資料のデジタル化を終えた。一枚モノの浮世絵は、約 4000 点あり、浮世絵全集等で紹介されているものも多いが、今回、画帖として保存されている浮世絵については、約 3500 枚もの量があり、始めてカタログ化されたものである。

・ローマ東洋美術館 (MNAOr)

【総点数】浮世絵 1246 件 古典籍 88 件

2015 年からデジタル化を開始。すべての作品のデジタル化を完了した。

・ルイジ・ピゴリニ国立民俗博物館 (MNPE)

【総点数】浮世絵 1399 件 古典籍 71 件

プロジェクト開始以前に一部の浮世絵はデジタル化が行われていたが、今回全ての浮世絵、古典籍では、厚冊のため撮影不可能な 2 点を残してデジタル化と、DB への搭載が完了している。

2017 年・ローマ東洋美術館とピゴリニ国立民族学博物館は、組織統合化により、東洋美術館が民族学博物館の建物に同居することになり、2 館併せて、今後の一般公開の交渉を行うことになる。

・ボローニア EFFE コレクション (EFFE)

【総点数】浮世絵 1526 件 古典籍 20 件

キオッソーネ東洋美術館の紹介で 2014 年からデジタル化開始。2016 年の追加作業を経て完了。新出の浮世絵コレクションである。量は、多くないものの、明治期の浮世絵には優品が多い。

(5) イギリス

・ウェールズ国立博物館 (NMWA)

【総点数】浮世絵 478 件

2012 年に全作品の撮影を完了した。

・ケンブリッジ大学図書館 (Cambridge)

【総点数】古典籍 518 件

2014 年からデジタル化を実施。当該資料は、

多くの和綴本に堅い表紙をつけ、洋装本として収納しており、デジタル化の手法について、ケンブリッジ図書館司書に訪日してもらい、関東関西の数カ所でも実態調査・方策について、打ち合わせた。また、作品サンプルを日本に移送し、専門業者と方策・手順について打合せを行い、修復のための補助金申請も実施したが、残念ながら採択に至っておらず、一部のデジタル化にとどまっている。ただし、漢籍和刻本の撮影可能分については、研究代表者受入れ専門研究員が継続してデジタル化を行っている。また、解題付の画像公開を図書館側が行っており、また、2018 年度中にこれまでの全撮影分について、「ARC ケンブリッジ大学図書館古典籍 DB」から一般公開する。

・大英博物館 (the British Museum)

【総点数】浮世絵 19093 古典籍 1514 件

2013 年大英博物館では、本プロジェクトの活動を評価してもらい、研究代表者が所属する立命館 ARC との共同開催で国際シンポジウムを現地で開催。現在のデジタル・アーカイブ型調査の学術的な効果について、評価を受けた。

2015 年度を以って、イギリス大英博物館の古典籍についても、すべてのデジタル化が完了した。大英博物館のオンライン DB は、登録に時間がかかり、現在のところ全てが公開されているわけではないが、2017 年に契約更新を機に ARC のポータル DB から公開している。

・スコットランド国立博物館 (NMS)

【総点数】浮世絵 4974 古典籍 40 件

当該博物館については、すでに 2011 年以前にデジタル化を終えているが、2012 年度以降に発見追加された資料について、デジタル化を行った。上記点数は、以前のカタログ化を含めた総計である。

・ヴィクトリア&アルバート博物館 (VAM)

【総点数】浮世絵 37815 古典籍 13 件

本博物館も、前プロジェクトからの継続であるが、2003 年段階でデジタル化したものは、現在の画像品質からみて、品質不足になっており、2012 年度 1 ヶ月滞在の上、修正を加えて完成画像を博物館に納品し、現在、シート型収蔵品については、すべて博物館オンライン DB から公開されている。しかし、画帖型資料については、一枚単位での収蔵番号が付与されておらず、いまだオンライン DB からは閲覧出来ない。

・メードストーン博物館 (Maidstone)

【総点数】浮世絵 664 件 古典籍 98 件

2016 年度、本博物館は、研究協力者松葉涼子氏の指揮により調査デジタル化された。現在、カタログ化を鋭意行っている。

・Ebi コレクション (Ebi)

【総点数】浮世絵 677 件 古典籍 951 件

本コレクションは、2012 年以前からデジタル化を進めてきた個人コレクションである。その後も、大きく所蔵件数を増やしており、本課題により、デジタル化を継続している。すべて、ARC ポータル DB から一般公開してお

り、所蔵者の欧米各地での古典籍レクチャーで活用されているだけでなく、日本国内での出版物・放送などでの利用率も非常に高い。

(6) ベルギー

・王立美術歴史博物館(MRAH)

【総点数】浮世絵 677 件 古典籍 951 件 (途中)

本コレクションの浮世絵は、2011 年以前に、デジタル化がスタートしたが、2012 年以降、研究協力者松葉涼子氏により、全体がデジタル化され、カタログギングも完了している。また、古典籍は、本報告書執筆時点で、ほぼ 50% のデジタル化が進み、次期プロジェクトにより、完了する予定である。浮世絵については、すでに美術館のオンライン DB で公開されていたが、2017 年度中に、ARC ポータル DB から一般公開がスタートした。

(7) スイス

・ボウアーコレクション (Baur)

【総点数】浮世絵 1176 件

2014 年度ジュネーブ市にあるバウアコレクションは、質の高いコレクションで知られているが、メトロポリタン美術館学芸員ビンチク・モニカ氏の仲介により、デジタル化を受入れてもらった。現在、鋭意メタデータを入力中であるが、期間中に整ったカタログギングを完了していない。引続き、完成を目指したい。

・ジュネーブ市立歴史博物館

【総点数】浮世絵 927 件

2014 年から同じくボウアーコレクションと至近のある当該博物館版画部所蔵品をデジタル撮影し、カタログギングを完了した。このカタログデータを使い、チューリッヒ大学美術学部と連携して、役者絵展を開催した。図録編集にあたっては、本課題で作成した画像とカタログデータを使い、フランス語と英語での解説をチューリッヒ大学側が行なった。

・リートベルグ博物館 (Rietberg)

【総点数】浮世絵 2047 件 古典籍 125 件

2015 年から、本博物館のデジタル化を実施。ジュネーブ市立歴史博物館でのコラボレーション以降、チューリッヒ大学ハンス・トムセン教授の協力を得て、チューリッヒ大学の院生らにも参加してもらいデジタル化が進んでいる。古典籍のカタログギングは完了、浮世絵のカタログギングは、鋭意進行中である。

・チューリッヒ工芸博物館 (MFG)

【総点数】浮世絵 218 件 古典籍 85 件

2016 年にデジタル化を実施。チューリッヒ大学の協力を得ている。古典籍はカタログギングが完了した。

・ベルン歴史博物館 (BHM)

【総点数】浮世絵 117 件 古典籍 14 件

2017 年にチューリッヒ大学の協力を得てデジタル化を実施。すべて、データベースへの登録は完了し、古典籍はカタログギングが完了した。浮世絵はカタログギング中である。

・グロスコレクション (E. Gross)

【総点数】浮世絵 450 件 古典籍 150 件

全くの新出コレクション。2016 年のチューリッヒ工芸博物館の調査時に、近隣に住む個人コレクターのコレクションとして紹介があり、デジタル化を開始。最終年度まで継続してデジタル化を実施している。予想を上回る質と量である。リートベルグ博物館への寄贈が決っており、本コレクションによる展覧会も企画されているので、チューリッヒ大学とも協力しながら継続してカタログギングの完成とその学術的活用を目指したい。

(8) オランダ

・ライデン民族学博物館 (Leiden)

【総点数】浮世絵 8045 件 古典籍 689 件

2014 年から現地若手研究者への技術移転を行い、ARC 国際モデルを使ったデジタル化を開始した。浮世絵は、全作品のデジタル化が終了し、カタログギングは、ほぼ 80% という状況である。古典籍については、現在も進行中であり、次期プロジェクトにより完了する。

(9) アイルランド

・チェスタービーティ図書館 (CBL)

【総点数】浮世絵 677 件 古典籍 951 件

本プロジェクト以前に、浮世絵についてはデジタル化が進めており、本課題期間中にはその補足デジタル化とバージョンのデジタル化とカタログギングを実施、完了した。奈良絵本や絵巻などがよく知られているコレクションであるが、それを補った形で有効活用ができよう。

なお、国内外の所蔵機関が WEB サイトから公開している場合に、画像やオリジナル DB の検索結果にリンクすることで画像を閲覧できるポータル DB を開発し、本研究課題でデジタル化・カタログギングを実施したデータと統合して閲覧できるようにした。これにより、本研究課題では調査の及ばない国内外の資料との画像による比較を実現している。

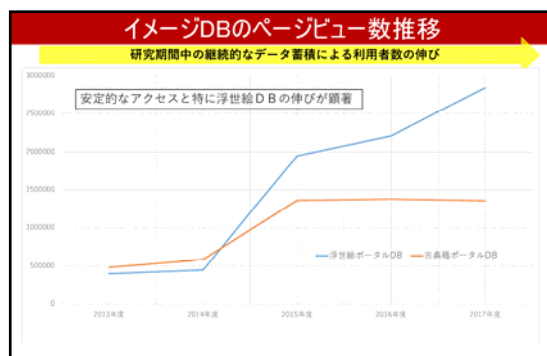
ARC 古典籍ポータル DB は、絵入版本以外も含めて 20 万件を超える作品を管理しており、日本の古典籍イメージ DB としては世界最大となっている。また ARC 浮世絵ポータル DB も、50 万件を超える作品を閲覧できる。但し、一般公開の了解を得られていない所蔵機関の作品は、公開できないので、公開数としては、古典籍ポータル DB が、約 15 万件、浮世絵ポータル DB が約 15 万件となる。

本プロジェクトの実質的な成果に対する評価は、まさにこのポータル DB がどれほど研究者や一般ユーザーに活用されているかにかかると考える。それぞれのデータベースへのアクセス数によれば、急激な伸びを示しており、明らかに評価を受けていると自負している。

以上、本研究は、当初は、調査可能との承諾を受けた 5 機関の悉皆デジタル化とカタログギングを目標としたものであったが、ARC モデルの浸透とデジタル化促進の潮流もあり、紹介者から紹介者へという連鎖が起き、予想を

大きく上回る成果を残すことができた。

基本情報と全画像を付した WEB データベース上でのカタログプロジェクトは、本課題が終了した現時点では、それほど珍しい方法ではなくなったと考えられるが、日本の文学・美術の分野では、なお、研究者の技術的な不足もあり、本研究がほぼ唯一の試みとなっている。また、日本の視覚型文化資源、とりわけ大量に生産された絵入版本や浮世絵は、まさに膨大な量が輸出されており、本研究が対象にして来なかったフランスや北欧にも未だ多くのコレクションが眠っている。2018年度以降も引き続き、継続して同じ手法による文化資源の発掘に努めて行きたい。



5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計6件)

- ①赤間 亮, R・Keyes, P. Morse 編「北斎版画作品カタログレゾネ」Web公開システムとシステム環境, アート・ドキュメンテーション学会秋季研究集会予稿集, 査読有, vol. 10, 2017, 24-25
- ②赤間 亮, 在外日本美術品のデジタル画像共有化をめぐる 絵本に注目して, 美術フォーラム 21, 査読無, vol. 35, 2017, pp. 82-89
- ③赤間 亮, 立命館大学アート・リサーチセンターの古典籍デジタル化: ARC 国際モデルについて, 情報の科学と技術, 査読有, vol. 65, 2015, pp. 181-186
- ④赤間 亮, 斎藤ちせ, 国際型 ARC モデルによるヴェネチア東洋美術館浮世絵画コレクションのデジタル・アーカイブとその全容紹介, アート・ドキュメンテーション研究, 査読有, vol. 21, 2014, pp. 22-35
- ⑤赤間 亮, イメージ・データベースの効用, 査読無, DH jp, vol. 2, 2014, pp. 68-77
- ⑥赤間 亮, デジタル・ヒューマニティーズの行方, 査読無, DH jp, vol. 1, 2014, pp. 49-55

〔学会発表〕(計4件)

- ①赤間 亮, 専門分野別研究資源ポータルデータベースと相互リンクによるユーザビリティ, 2016年度アート・ドキュメンテーション学会年次大会, 2016
- ② Ryo Akama, Digital Humanities for Japanese Arts and Culture: the Case of the Art Research Center, Ritsumeikan

University, Digital Humanities and The Futures of Japanese Studies: A Symposium and Workshop, 2015

- ③ Ryo Akama, A New Approach to Collaborative Research in the Digital Humanities for Museums and Universities, Museums in the Digital Age: Case Studies in the Digitisation of Japanese Cultural Artefacts, The Raymond and Beverly Sackler Rooms, 2014
- ④ Ryo Akama, 和本デジタル化の進捗と古典籍情報の統合・活用手法, EAJRS2012, 2012

〔図書〕(計3件)

- ① Ryo Akama, Musees d'art et d'histoire de geneve, Le geste suspendu; ESTAMPES KABUKI DU CABINET D'ARTS GRAPHIQUES (Les differents types d'images d'acteurs (Various Types of Actor Prints)), 2014, 30-53
- ② Ryo Akama 他, Fantasia en escena: kunisada y la escuela utagawa (Yakusha-e: las estampas de actores en el contexto visual del ukiyo-e), Madrid y Murcia, 2014, 31-44
- ③ Ryo Akama 他, La grande onda di Hokusai Toccare il sentimento della forma (Particolarita e capolavori della collezione di stampe ukiyoe del Museo d'Arte Orientale di Venezia), CAFOSCARINA, 2013, 38-60

〔その他〕

- ①浮世絵ポータル DB
http://www.dh-jac.net/db/nishikie/search_portal.php
- ②古典籍ポータル DB
http://www.dh-jac.net/db1/books/search_portal.php
- ③サレジオ大学マレガ文庫古典籍 DB
http://www.dh-jac.net/db1/books/search_marega.php
- ④サレジオ大学マレガ文庫浮世絵 DB
http://www.dh-jac.net/db/nishikie/search_marega.php
- ⑤ARC Osaka Prints DB
http://www.dh-jac.net/db/nishikie/search_osaka.php

6. 研究組織

(1) 研究代表者

赤間 亮 (AKAMA, Ryo)
立命館大学・文学部・教授
研究者番号: 70212412

(4) 研究協力者

Hans Tomsen (Hnas, Tomsen)
松葉 涼子 (Matsuba, Ryoko)
李 増先 (Li, zengxian)